



品川区青少年委員だより 100号記念

8月11日 事業部自主事業 “デイキャンプ体験会”



今回の事業部自主事業は、コロナの影響で3年ぶりの開催となりました。

事業部の事業といえば、親子で参加する行事をメインに行って来ましたが、今年度ジュニア・リーダー教室の抽選から惜しくも漏れてしまった子どもたちに、キャンプ体験をさせてあげたいという小林会長の思いから開催に至りました。

参加した子どもたちの体験したい!と思う好奇心に助けられ、無事に成功させる事が出来ました!次回も参加したい!と、早速応募の連絡があった事が、とても嬉しく、開催出来てとても良かったな~と思っています!

事業部長 清水(秀)

品川区 子ども未来部 部長 柏原 敦



青少年委員だよりは記念すべき100号を迎えることができました。これもひとえに青少年委員の皆様のご熱意と努力の賜物と存じます。令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、約2年間ジュニア・リーダー活動の自粛を余儀なくされ、子どもたちが異年齢集団の中での様々な体験学習活動をする機会が失われました。Withコロナと言われる今、感染症予防の対策をしっかりと行いながら、活動を再開していくことが大切です。

青少年委員の皆様には、これまでの経験や知識を活かし、創意工夫のある事業を展開し、子どもと大人、地域をつなぐ存在として、今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

青少年委員の皆様には、これまでの経験や知識を活かし、創意工夫のある事業を展開し、子どもと大人、地域をつなぐ存在として、今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

品川区青少年委員会 会長 小林 裕治



青少年委員だより100号を発行という節目を迎えることになりました。私たちの活動が多くの人に影響を与えていることを広く区民の皆さんにお知らせする良い機会だと考えています。子どもたちが置かれている環境は、大きく変化を遂げてきています。私たちは青少年委員として子どもたちとどう取り組んでいくかが問われています。その方向性をこの「だより」を通じてこれからも区民の皆さんに発信し続けられるよう日々研鑽し、努力していきたいと思っております。私たちの活動にどうかご理解とご協力をお願いします。

子どもたちが置かれている環境は、大きく変化を遂げてきています。私たちは青少年委員として子どもたちとどう取り組んでいくかが問われています。その方向性をこの「だより」を通じてこれからも区民の皆さんに発信し続けられるよう日々研鑽し、努力していきたいと思っております。私たちの活動にどうかご理解とご協力をお願いします。

令和4年度のジュニア・リーダー教室がいよいよスタート

感染症流行による約2年間の活動自粛を経て、いよいよ令和4年度のジュニア・リーダー教室は、5月8日(日)に開講式を迎えることができました。しっかり感染防止対策を行った各会場では、リーダーや受講生達の元気な姿や笑顔に溢れ、すばらしいスタートとなりました。

●中・高校生会場の様子



●旗の台会場の様子



●南大井会場の様子



●五反田会場の様子



青少年委員会歴代会長の方々



品川区青少年委員だよりが100号を迎えることをうれしく思います。この「だより」がユニークな取り組みや、ニュースを届けるツールとして、大きな役割を果たしてまいりました。

私が青少年委員に任命されたのは昭和55年で、言われるがままに広報部の担当(2年間)になりました。当時は謄写版鉄筆手書きでした。これが印刷になったのは昭和63年でした。さて、現在の青少年委員をめぐる社会的状況は、青少年の生活や意識を大きく変化させ、その求めるものは、多様であり、こうしたなかで青少年委員に期待されるものは、また多様であり、新しい時代に応じた指導性を求められているものと思います。こうした中で、日頃青少年育成のために活動されている皆様に敬意を表しますとともに、この「だより」が区内の多くの人に読まれ、青少年委員の活動がより活発にされることを願ってやみません。

昭和59年度～平成11年度 市川 信之助



品川区青少年委員だより100号発行おめでとうございます。毎号青少年委員活動の周知に取り組んで来られた諸先輩委員並びに現委員の皆様のご尽力に、また常時サポートして下さる事務局に敬意を表します。

在任中は継続または新規活動を考え計画案を提示する中、意見の相違は当然ありました。しかし、実施にあたっては皆が協力し「オールしながわ」として活動力を発揮して進んだことは励みでした。

時代の流れと共に若者の取り巻く環境は変化しますが、青少年が健全に育つ環境はおとなや社会が守り続け築く必要があります。今後も青少年委員会ならではの柔軟な発想を持ち続け、次代を担う青少年の個性を活かす活動、さらには活動環境の場所づくりにも貢献度が高まるよう期待します。

平成22年度～平成27年度 有馬 成美



品川区青少年委員だよりの第100号発行、誠にありがとうございます。

この間、コロナ禍での活動色々制限され大変だったと思います。こんな状況の中でも、今日の青少年にも、今までと同じ青春を過ごして欲しいものです。そうなれる様、現職委員には、先人から引き継いだ長い歴史の活動を糧として、未来を担う青少年の健全育成に、ご尽力いただければとおもいます。

青少年委員会の益々のご発展と、現職委員の時代を見据えた活動に期待し、お祝いの言葉と致します。

平成12年度～平成21年度 荻野 正



青少年委員だより第1号



品川区青少年委員だより100号誠にありがとうございます。

私も20年間品川区青少年委員として携わらせて頂き、育成事業の大切さと地域の温かさを学びました。しかし近年では新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校教育や地域事業が一変してしまい、授業はリモートに変わり、地域事業は中止と子ども同士のふれあいがなくなりました。

今後のジュニア・リーダー教室のように異学年交流や友達作りにご尽力頂き、今後は、品川区全体の親子事業や各地区の潤滑油としてご活躍を期待します。「オールしながわ」青少年委員会の益々のご発展を祈念いたします。

平成28年度～令和元年度 平林 繁雄

青少年委員紹介



育成部

土屋 (荏原3) 松本 (大崎2) 川邊 (荏原2) 清水(昇) (大崎1) 石渡 (品川1) 落合 (大井2) 飯田 (荏原4) 小池 (荏原5)



事業部

石橋 (大井1) 大野 (荏原1) 清水(秀) (荏原5) 中村 (大井2) 木暮(登) (大井3) 近藤 (荏原3) 鳥海 (荏原4) 本田 (大崎1)



広報研修部

野崎 (荏原3) 津曲 (荏原5) 三森 (大井1) 木暮(佳) (大井3) 半戸 (荏原1) 鈴木 (大崎1) 檜山 (大井2)

元リーダーからのコメント

100号発行おめでとうございます。
ゴーゴー五反田&旗の台のガンリュウです。
受講生だけでなく、リーダーも成長できる素敵な
場。技術以外の学びもたくさんありましたね。支えて
下さっている青少年委員さんに感謝です。

ガンリュウこと白井 徹

小学5年生から始めたジュニア・リーダー教室が
大好きで、大学1年生でリーダーになりました。ジュ
ニアを通じて出会えた仲間は10年、20年以上の付
き合いです。家でも学校でもない、私の居場所で、
青春でした！

アヤノこと村山 彩乃
(旧姓:近藤)



22年前に中学生コースリーダーを委嘱され
たことがJL教室との出会いでした。

個性的な仲間と子どもたちとの出会い。豊富
な知識経験と素敵な笑顔でリーダーを導き、
絶大な安心感と安定感で子どもたちとの時間
を任せてくださる青少年委員さん達との活動。
私にとって20代の大切な思い出であり、
「今」があるのはJL教室での活動があったか
らです。

これからも青少年委員会とJL教室のます
ますの御発展を祈念申し上げます。

ムサシこと白井 瑛

受講生・リーダー・研修生と長い間お世話に
なる中で、活動を通じ「人とのつながり」を学ば
せていただきました。

そして、人生の宝とも言える多くの友人を得
ることができました。私の人生と、ジュニア・リ
ーダー教室は共にあったといっても過言ではな
いほどです。これもひとえに、青少年委員の皆
様のご尽力があつてのことと、深く感謝してお
ります。品川区青少年委員会とジュニア・リ
ーダー教室の今後の益々のご発展を心より祈念
しております。

ユウこと荻野 友



一緒に活動した
仲間たちとの思い出



近藤信一さんの中の一の頃(1971年)
(綾乃さんのお父様も受講生でした)

色々な子と協力し物事を作りあげることが
とても楽しかったです♪ジュニアリーダーを
経験したからこそできるようになったことが
たくさんあると思います。全ての活動がリーダ
ーを卒業した今でも大切な思い出です！

カホこと関本 夏歩





7月9日・10日

薪割り、火付け、食材切りの練習をしてから昼食の準備。メスティンでご飯を炊き、カレーを作りました。とても美味しく出来て、あっという間になりました。片付けしてからリーダー達とレクでたくさん遊びました。楽しい2日間でした。

キャンプの準備は

私たちにまかせて

ジュニア・リーダー教室デイキャンプ

みなとが丘ふ頭公園 品川区八潮



火の起こし方を習得

みんなで作ったカレー

包丁を使って食材の準備

大きな火で料理を煮る

今年度のリーダー

今期の事務局



りあ こう めい そよ



田中 新田 小林

前期退任された方々

在任期間の思い出は沢山ありすぎて一言では語れません。まず、何人身内や親戚の不幸を題材にしてキャンプや打ち合わせに参加したか。キャンプ場では、アブやブヨに刺され足首が腫れ上がり皮膚科の先生に「その火傷どうしたの?」と言われる始末。虫刺されの女王と言われてました。又、冬合宿では宿泊先で前夜熱を出した子どもを翌朝病院に付き添い、戻ってきたら皆帰りのバスに乗り込む所…何も活動出来ませんでした。それも今となっては楽しい思い出になりました。最後にアフターのお付き合いも大切です。

人の気持ちを分かち合えるそんな気持ちが大切だと思います。

廣田 ヨシ子

皆さんご無沙汰しております。前期はコロナ真っ只なかで活動がほぼ出来ませんでしたが、自粛がいつ解除されてもいいよう準備万全にしていました。

願いもむなしく活動できませんでしたが、コロナ禍での対応を考えながらどのようにしたら運営出来るか打ち合わせしたことはいい思い出になりました。早くコロナ禍前のような活動ができる日が来ることを願い、これからも楽しい青少年委員会の活動を期待しております。

大澤 健一

ジュニア・リーダー教室では、山登り、川遊び、飯盒炊飯、ナイトハイク、キャンプファイヤー、事業部では家族で楽しめる事業を企画し、20年間青少年委員として活動してきました。毎回、子どもたちの心が一つになり、成長する姿を見ることができました。今後も切磋琢磨しながら青少年委員会を築いていって欲しいです。20年間ありがとうございました。

石田 美恵子

私の青少年委員の思い出は色々ありますが、一番と言われるとやはりジュニア・リーダー教室でしょう。私自身プライベートでキャンプをする事がなかったので、ここで沢山のことを経験しました。

何年もやっている子どもたちの成長を見られる事もうれしい事の一つでした。

思い返せば大変でしたが、自分自身を成長させてもらったと思います。

近藤 祐子

青少年委員活動はいつも驚きと発見の連続でした。夏のキャンプでは全長15mの『超ロングラン流しそうめん』、冬は雪上冷凍ミカン作りやソリ滑り等アイデア満載です。

頼もしいリーダー達が常に寄り添い、活動はいつも活発で安全でした。

武藤 弘美